

## ネットワンシステムズ株式会社

# コラボレーションやチャレンジを自由に オールシスコの環境でイノベーションを創発

ネットワンシステムズは、新たに開設した「netone valley」で多様な人のコラボレーションを促進し、イノベーションを創発することを目指しています。そのチャレンジを支えているのがオールシスコのネットワークインフラです。利便性と安全性を高めたセキュリティ、人・モノの動きの可視化など、複数の特徴で新しいサービスの実現を支えています。



## ネットワンシステムズ 株式会社

**本社所在地**

東京都千代田区丸の内二丁目7番2号  
JPタワー

**設立**

1988年(昭和63年)2月1日

**連結社員数**

2,548人(2023年3月31日現在)

人とネットワークの持つ可能性を解き放ち、伝統と革新で豊かな未来を創る——。自身の意義をそう定めているネットワンシステムズ。ネットワーク技術の中核とする ICT インフラ構築サービスや関連ソリューションを通じて、多くの企業の ICT 活用を支えています。

## 課題

- ・ イノベーション創発の中核となる新拠点では、自由なコラボレーションを支える安全性、挑戦やトライアル&エラーを繰り返すための柔軟性などを備えたネットワークが不可欠
- ・ 既存拠点では、ネットワークの運用管理負荷が高く、イノベティブな活動にデジタル人材のリソースがシフトできない
- ・ 意思決定や価値の創出をデータ主導で行う「データドリブンエンタープライズ」を目指す

## ソリューション

- ・ Cisco Catalyst、Cisco Secure Network Analytics (旧 Stealthwatch)、Cisco TrustSec、Cisco Identity Services Engine (ISE) などで「自由と安全を両立するセキュリティ」を実現
- ・ 自動化による運用管理の効率化が可能な Cisco DNA Center を導入
- ・ Cisco ThousandEyes によって WAN のトラフィック状況を可視化
- ・ Cisco Spaces で様々なデバイスからデータを収集・集約して活用

## 結果

- ・ 高い利便性と安全性、柔軟性などを備えた、イノベーション創発拠点にふさわしいネットワーク基盤を実現
- ・ 自動化などを駆使してネットワークの運用管理負荷を大きく削減可能。デジタル人材をイノベーションのための活動に集中させられる
- ・ 収集したデータを集約し、ビッグデータ活用につなげる新しいサービスをシスコと共同開発中

## 今後

- ・ 新拠点で実現した、運用中の次世代ネットワークをお客様への提案に積極的に活用
- ・ お客様や社会の課題を解決する DX の伴走者を目指し、挑戦と変革をさらに加速

自由なコラボレーションを  
促進するため  
セキュリティは利便性と安全性  
を両立しています

## 川端 伸幸 氏

ネットワンシステムズ株式会社  
テクニカルセンター長  
管理本部 DX 推進部長



## 課題

### 共創によるイノベーション創発を目指す新事業拠点

社会のDX（デジタルトランスフォーメーション）が加速しています。新しいサービスを実現するものとしてXR（クロスリアリティ）、生体認証、AI（人工知能）など、様々な技術が注目を集めていますが、イノベーションの創出を縁の下で支えているネットワークインフラの存在も見逃せません。

DXを支えるネットワークには高度な要件が求められます。膨大なデータを流通させるための高い性能、サービスを止めない高度な信頼性、安全性に直結する強固なセキュリティ、そして、アイデアを形にしながらいよいよトライアルを繰り返すための柔軟性などです。ネットワンシステムズも、DXの推進のために、これらの要件を満たす先進的なネットワークの実現に取り組んでいる企業です。

デジタル社会の中で、これまで以上に大きな価値を提供するためにはどうあるべきか——。そう自問し、ネットワンシステムズは、DXの伴走者となるべく自身の変革を進めています。その変革を実践する新しい事業拠点としてイノベーションセンターの役割を持つ「netone valley」を開設しました。

netone valley のコンセプトは「新しい価値を創造し豊かな未来を切り拓くチャレンジの場」。ここで社員同士、そしてパートナーやお客様とのコラボレーションを促進し、知や技術・ノウハウをぶつけ合い、共創によるイノベーションを創発していくことを目指しています。

「イノベーションによって新しい価値を生むために重要なのは人の意識や行動の変化ですが、働く環境が刺激を与え、その変化を促すこともできるはず。その思いが netone valley の根底に流れています」とファシリティ設計を中心にプロジェクトをリードしたネットワンシステムズの内田雅裕氏は言います。

netone valley には、社員が業務を行うワーキングエリア、PoC（概念実証）やシステムテストを行う検証エリア、機器や部品の管理や出荷を行う物流エリア、レストランやカフェなどリフレッシュのための福利厚生エリア、そして、協

業と価値創造の舞台となるイノベーションエリアという異なるエリアが同居しています。それぞれ様々な工夫が施されていますが、全てのエリアを網羅するネットワークについては、既存拠点のネットワークが抱えていた課題を解決し、イノベーションのための挑戦を支えるべく「自由と安全を両立するセキュリティ」「運用の効率化」、そして「高度な将来性・拡張性」を実現することを目指しました。

「例えば、以前はネットワークに簡単に入れさせないことを前提としていたため不便なことも多かったのですが、それでは様々な人が集い、コラボレーションを行いながらオープンイノベーションを目指す netone valley にはふさわしくない。高度なセキュリティで自由を支え、利便性と安全性を両立したいと考えました」と同社の川端 伸幸氏は言います。

## 思いついた閃きを、すぐに形にできるネットワークを実現

### ソリューション

#### シスコ製品でお客様に提案したくなるインフラを構築

具体的にイノベーションを支えることを重視した netone valley のネットワークは、全てシスコ製品で構成されています。

「お客様に提案するテクノロジーは、まず自社で導入し、評価したり、ノウハウを蓄積したりするのがネットワンシステムズの基本姿勢。netone valley のネットワークインフラは、イノベーションを支えることに加えて、そのことを強く意識し『社員とお客様を惹きつけるオフィスインフラ』をコンセプトに据え、社員がお客様に提案したくなる機器やソリューションを選ぼうと考えました。このような観点で選んだのがシスコの製品です」と川端氏は言います。

まず「自由と安全を両立するセキュリティ」を支えているのが、Cisco Secure Network Analytics（旧 Stealthwatch）、

Cisco TrustSec、Cisco Identity Services Engine (ISE) です。

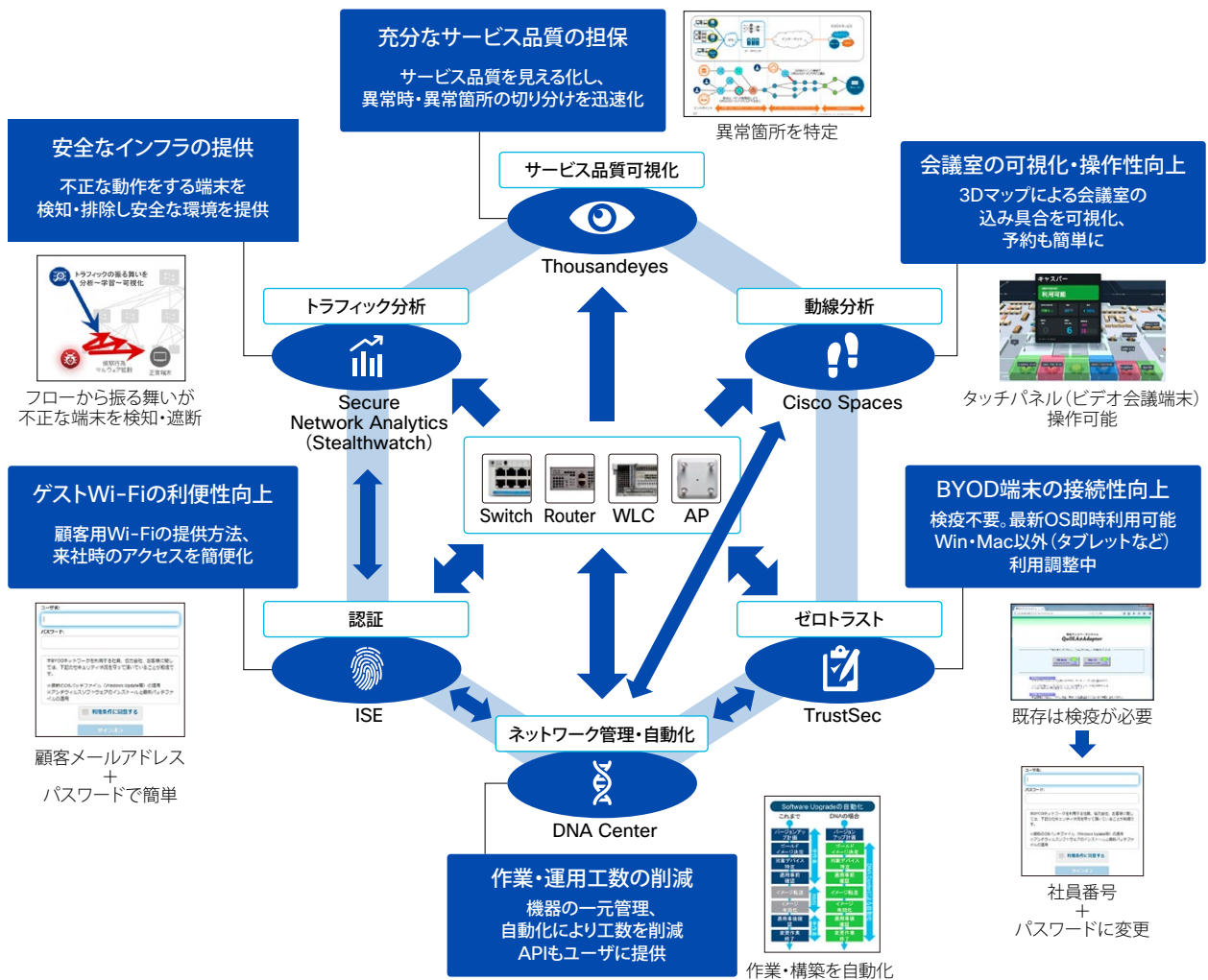
Cisco Secure Network Analytics は、ネットワーク機器やクラウド上のトラフィックを高度な技術で分析したり、セキュリティリサーチチーム「Cisco Talos」による脅威インテリジェンスによって脅威判定・検出を行ったりしながら、ネットワーク上の攻撃行動や疑わしい振る舞いを検知。また Cisco TrustSec はネットワークセグメントに依らずに

人やデバイスに対するアクセス制御を実現します。次いで ISE は netone valley の来訪者に限定的なアクセス権を付与し、簡単かつ安全なゲスト Wi-Fi を可能にしています。

**オールシスコの環境でデータ取得から制御までをシームレスに実現**

「運用の効率化」を担っているのが Cisco DNA Center です。Cisco DNA Center は、ネットワークの直感的な管理を可能にするネットワークコントローラー。複数の機器の

**netone valley のICTインフラ**



統合管理、ゼロタッチ プロビジョニングなどの自動化によってネットワーク運用を大幅に効率化します。「運用工数の削減による生産性向上、障害の未然防止・早期解決への貢献に期待しています。世の中の多くの運用管理者が負担の大きさに頭を抱えています。私たちが率先して自動化による効率化を進め、その課題が解決できることを示したい。そうすることで貴重なデジタル人材のリソースを運用から解放し、イノベーションのための活動にシフトさせることができるはずです」と川端氏は言います。

最後の「高度な将来性・拡張性」は、よくいわれる機器の増設のしやすさではありません。サービスの開発のしやすさを指します。

ワークスタイルが変わり、働く場所に対する要求も大きく変わってきています。例えば、「誰がどこで働いているかを知りたい」というニーズは、固定席の時代にはなかったものです。そこで netone valley は「こんなことができるという閃きを、すぐに形にできるよう、様々なデータを可視化しているのです。カメラやセンサーを各地に設置しているだけでなく、Cisco DNA Center を通じて LAN、Cisco ThousandEyes を通じて WAN のトラフィックの状況を可視化、また無線ネットワークへのアクセス状況を通じて人やモノの動きを可視化しています。さらには位置情報を把握する Cisco Spaces によって、netone valley 内の動線を可視化することも可能になります。

## 結果～今後

### 先進的なネットワーク上で実践する積極的なデータ活用

自由と安全の両立、高度な運用性、活発なチャレンジを支える拡張性を実現した netone valley のネットワークをベースにどのようなイノベーションが生まれるのか——。「ネットワークをベースに営業や技術部門など、多くの社員が連携して、自分たちが便利になるもの、お客様によるこんでいただけそうなものの実現に挑戦し、サービスイノベーションを起こしていきたいですね」と川端氏。その挑戦が本格化するのはいずれですが、すでに始動しているプロジェクトもあります。



ネットワンシステムズ株式会社  
管理本部  
総務部長

内田 雅裕 氏



ネットワンシステムズ株式会社  
テクニカルセンター長  
管理本部 DX 推進部長

川端 伸幸 氏



ネットワンシステムズ株式会社  
ビジネス開発本部  
イノベーション推進部長

村上 丈文 氏

「先進的なネットワークを通じて様々なサービスをつなぎ、多様なデータを取得して可視化したり、活用を前提に多様なデータを統合したりしながら、多くの企業が取り組んでいるデータ活用の理想的なモデルも netone valley を舞台に追求。ネットワンシステムズ自らあらゆる意思決定や価値の創出をデータ主導で行う『データドリブンエンタープライズ』を実践していきたいと考えています」と同社の村上 丈文氏は言います。

Cisco Spaces のデータを活用した取り組みもあります。

「Cisco Spaces のデータを活用すれば、会議室エリアのマップをUIとして、会議室の利用状況やネットワーク品質が一目でわかるサービスを開発できる。場合によっては、その画面からネットワークの増強を図る設定変更までを行えるようにするなど様々な可能性が考えられます。実際、マップ状のUIをシスコと共に開発中です。データの取得と可視化、それらを活かした制御までをシームレスに実現できることもオールシスコでICTインフラを構築したメリットです」と川端氏は話します。

内田氏は Cisco Spaces による人の位置情報を活用し、イノベーションにつながる人と人との出会いをサポートすることも構想しているといいます。

「オープンな環境を提供し、コラボレーションが生まれるのを待つだけでなく、netone valley がコラボレーションのきっかけを提供することはできないか。そう考えています。例えば、出社している人の中に、イノベーションの観点で親和性の高い組み合わせがあったら、AIが『声を掛けてみませんか?』とレコメンドを送る。そんな未来を妄想しています」と内田氏は意気込みを語ります。

このように新生ネットワンシステムズの象徴である netone valley には、全社を挙げてイノベティブな企業になるという同社の強い思いが反映されています。イノベーションを支えることを重視して構築したシスコ製品によるネットワークは、その象徴。同社は netone valley での新しいチャレンジを推進力として、企業変革の歩みをさらに加速させる考えです。その変革を通じて、今後、同社がどんなイノベーションを世に提示するのか。大いに楽しみです。



人とネットワークの持つ可能性を解き放ち、伝統と革新で豊かな未来を創る——。ネットワーク技術の中核とするICTインフラ構築サービスや関連ソリューションを提供している。

URL <https://www.netone.co.jp/>

## 製品 & サービス

- Cisco Catalyst
- Cisco Secure Network Analytics (旧Stealthwatch)
- Cisco TrustSec
- Cisco Identity Services Engine (ISE)
- Cisco DNA Center
- Cisco ThousandEyes
- Cisco Spaces